

【考えよう！新潟の未来 ―取材結果をXBで共有しよう―】

新潟大学教育学部附属新潟小学校 片山敏郎

1. 単元について

(1)学年と単元名(題材名)

- ・6年生, 総合的な学習の時間
- ・単元名: 考えよう!新潟の未来-「新バス交通システム」とまちづくり-

(2)ねらい

新潟市が推進を進めている「新バス交通システム」を通したまちづくりについて, 考えることで, 「持続可能なまちづくり」の大切さを考えることができる。

(3)概要

第1次(探究の1サイクル目)

- ・現在のバスシステムの課題を見だし, 学習計画を立てる。
- ・「新バス交通システム」の概要, 利点と欠点をまとめる。
- ・ゲストから「新バス交通システム」成功の要件をインタビューする(本時)。
- ・有識者の意見から考えを整理する。

第2時(探究の2サイクル目)

- ・「新バス交通システム」を成功させる要件について外部に発表する。
- ・活動を振り返る。

2. 本時の活動について

これまで調査してきた「新バス交通システム」が成功するための要件について, 意見を出し合った。

次に自分達の考えを更に明確にするために, 4つの立場のゲストティーチャー(市新交通推進課職員・バス会社職員・商店街の方・郊外の住民)のから話を聞くことにした。学習班は4人で構成されているので, 各自が担当するゲストティーチャーを決めた。各学習班から集まった担当者(取材班)でインタビューを行った。児童は, インタビューをしながら各自のXBにまとめた。

インタビューでは, 沢山の情報を得ることができた。その情報を学習班に効果的に伝えるため, 情報を整理することにした。取材班で話し合いながら, 以下の2点を中心に編集をした。①価値ある情報を3つ選択する, ②文章ではなく短文かキーワードで示す。

生活班にもどり, 取材結果の交流を行った。児童は, 「新バス交通システム」を成功させ



るために一番大切なことを改めて考えることができた。その際に、活動を個人で振り返れるように、XBの分配機能を使い、4人の情報を各自のiPadにコピーした。話し合いの成果は、クラス全体に発表した。

最後に、有識者（研究者）の話聞き、これまでになく視点から自分たちの考えを見直した。



3. XB 活用のポイント

XBは、取材班でのインタビューの情報を、学習班で交流する目的で用いた。学習班に戻ったときに取材したゲストの立場が一目で分かるように、予めラベルの色を取材班毎に設定した。交流の際には情報が多すぎると視点が絞れない。特に、沢山のラベルがあると分配後に、見にくくなる。そこで、情報を精選させた。